



N1 Grid Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリ リースノート (Oracle Database Plug-In 1.0)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-2767-01
2005 年 6 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Adobe は、米国 Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System User's Guide and Release Notes for the Oracle Database Plug-In 1.0

Part No: 819-1843-10

Revision A



050605@11223



目次

はじめに	5
1 Oracle Database プラグインの概要	9
Oracle Database プラグインの目的	9
Oracle Database プラグインの内容	10
Oracle Database プラグインの使用に伴う要件	10
Oracle データベースソフトウェアに関するそのほかの情報	10
2 Oracle データベース プラグインのリリースノート	13
インストールに関する情報	13
Oracle 9i は Oracle 10g に依存する (6229179)	13
Linux プランでの Oracle 9i のアンインストールが失敗する (6227857)	14
Linux AS 3.0 で Oracle 10g のアンインストール処理が不完全であると、再インストール処理が失敗する (6254511)	14
実行時の問題	15
3 Oracle Database プラグインのインストールと構成	17
Oracle Database プラグインの入手	17
Oracle Database プラグインを N1 Grid SPS に追加	18
環境に合わせてソリューションをカスタマイズ	19
リモートエージェントに関する要件	19
Linux システム用の共有メモリーとセマフォの設定	19
Solaris システム用の共有メモリーとセマフォの設定	19
SPARC で動作する Oracle 9i 用の Solaris パッチ	19

4 Oracle Database プラグインの使用法	21
Oracle データベースプラグインプロセスの概要	21
Oracle サポートスクリプト	22
Oracle ユーザーおよびグループ	22
Oracle シングルインスタンスソフトウェア	23
▼ セッション変数を設定する	23
▼ Oracle Database 10g 用の Oracle シングルインスタンスソフトウェアをインストールする	23
▼ Oracle Database 9i 用の Oracle シングルインスタンスソフトウェアをインストールする	26
データベースの作成と使用	29
データベースについて	29
▼ Oracle 9i データベースを作成する	29
▼ Oracle 10g データベースを作成する	30
同じホストで Oracle 9i と 10g を使用する方法	32
コンポーネント	32
OraSpt コンポーネント	32
SingleInst コンポーネント	32
障害追跡	32
索引	35

はじめに

このマニュアルでは、N1™ Grid Service Provisioning System (N1 Grid SPS) ソフトウェアを使用して Oracle データベース アプリケーションおよびファイルの取得と配備を行う方法を説明します。

対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、N1 Grid SPS ソフトウェアに Oracle データベースの機能を組み込む N1 Grid SPS ソフトウェアのシステム管理者やオペレータなどです。これらのユーザーは、次のことに精通している必要があります。

- N1 Grid SPS 製品
- 標準的な UNIX® および Microsoft Windows のコマンドとユーティリティー
- Oracle データベース 製品の一般的な概念と管理機能

お読みになる前に

N1 Grid SPS ソフトウェアの使用に関して知識が十分ではないユーザーは、次のマニュアルをお読みください。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート』

内容の紹介

第1章では、プラグインソリューションの概念を説明します。

第2章では、このプラグインに関する最新のニュースと既知の問題について説明します。

第3章では、プラグインのインストールと構成方法について説明します。

第4章では、このプラグインを通してアプリケーションやファイルの入手と配備を行う方法を説明し、プラグインで提供される特定のコンポーネントタイプについて示します。

第三者の関連 Web サイト

このマニュアル内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供します。

注 - このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。

Sun のサービス	URL	内容
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y |n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Oracle Database プラグインの概要

この章では、N1 Grid Service Provisioning System (N1 Grid SPS) を使用した Oracle データベースソフトウェアのプロビジョニングに関する一般的な情報を説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 9 ページの「Oracle Database プラグインの目的」
- 10 ページの「Oracle Database プラグインの内容」
- 10 ページの「Oracle Database プラグインの使用に伴う要件」
- 10 ページの「Oracle データベースソフトウェアに関するそのほかの情報」

Oracle Database プラグインの目的

N1 Grid SPS ソフトウェアは、Oracle 9i および 10g データベースソフトウェアを即座に使用できるようにする高度な機能を備えています。そのため、ユーザーは Oracle データベースソフトウェアおよびデータベースを簡単にプロビジョニングできます。Oracle データベースサポートは、N1 Grid SPS 環境に読み込まれる Java™ アーカイブ (JAR) ファイルにパッケージ化されています。Oracle データベースプラグインは、企業全体に Oracle 9i および 10g データベースソフトウェアを配備するプロセスを単純化します。

注 - Oracle データベースプラグインのこのリリースは、シングルインスタンス環境の Oracle データベースソフトウェアだけをサポートしています。Oracle RAC (Real Application Clusters) のサポートは含まれていません。

Oracle Database プラグインの内容

Oracle データベースプラグインでは、主な機能として次のことができます。

- Oracle データベース構成の作成に必要なサポートスクリプトをインストールする。
- Oracle データベースソフトウェアを会社全体にインストールする。
- Oracle データベースを作成する。

Oracle Database プラグインの使用に伴う要件

Oracle データベースプラグインは、Linux や Solaris™ システムで動作する Oracle 9i および Oracle 10g データベースソフトウェアをサポートします。Oracle データベースソフトウェアの使用に伴う要件の詳細については、Oracle のマニュアルを参照してください。プラグインを使用するためには、そのほかに次の要件を満たす必要があります。

- Oracle 9i Release 2 または 10g Database ソフトウェアのコピーが、ライセンスされた正当なものである。
- N1 Grid SPS 環境がインストールされている。
- Oracle データベースソフトウェアを次のいずれかの構成で実行することになっている。
 - Oracle 10g データベース (Redhat Linux AS 3.0)
 - Oracle 10g データベース (Redhat Linux AS 2.1)
 - Oracle 10g データベース (SPARC または x86 用の Solaris 9)
 - Oracle 9i Release 2 データベース (Redhat Linux AS 3.0)
 - Oracle 9i Release 2 データベース (Redhat Linux AS 2.1)
 - Oracle 9i Release 2 データベース (SPARC 用の Solaris 9)

Oracle データベースソフトウェアに関するその他の情報

プラグインを使用するためには、Oracle データベースソフトウェアの知識が必要です。この製品に関するその他の情報については、次の Oracle 情報を参照してください。

- General Information about Oracle Database
(<http://www.oracle.com/database/index.html>)
- Documentation for Oracle Database 9i
(<http://www.oracle.com/technology/documentation/oracle9i.html>)
- Documentation for Oracle Database 10g
(<http://www.oracle.com/technology/documentation/database10g.html>)

第 2 章

Oracle データベース プラグインのリリースノート

この章では、Oracle データベースプラグインの最新のニュースと既知の問題について説明します。

- 13 ページの「インストールに関する情報」
- 15 ページの「実行時の問題」

インストールに関する情報

Oracle データベースプラグインのインストール時の問題として次のものがあります。

Oracle 9i は Oracle 10g に依存する (6229179)

Oracle 9i プラグインのインストール時に次のメッセージが表示されることがあります。

```
Unable to install plug-in "com.sun.oracle9i_DB" version 1.0. This plug-in has a dependency on another plug-in "com.sun.oracle10g_DB" version 1.0, which was not found. You may need to install the missing plug-in first before re-trying to install this plug-in. (604010)
```

対処方法: Oracle 10g データベースプラグインを先にインストールしてください。2つの Oracle データベースプラグインはどちらも、共通の OraSpt コンポーネントに依存しています。このコンポーネントは Oracle 10g プラグインの一部になっているため、10g データベースプラグインを先にインポートする必要があります。

Linux プランでの Oracle 9i のアンインストールが失敗する (6227857)

RedHat Linux システムで Oracle 9i 用のアンインストールプランを実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
"unexpected signal 11" (SIGSEGV) in /lib/ld-linux.so.2 during the call to the Oracle Universal Installer with the options "-silent -deinstall".
```

対処方法:手動でファイルを削除します。

Linux AS 3.0 で Oracle 10g のアンインストール処理が不完全であると、再インストール処理が失敗する (6254511)

対処方法:手動でファイルを削除します。次の手順を実行します。

1. /opt/app/* Oracle ディレクトリを削除します。
2. prep-OS スクリプトをインストールした Oracle ディレクトリを削除します。
3. Oracle ユーザーを削除します。
4. oinstall グループを削除します。
5. dba グループを削除します。
6. /etc ディレクトリの Oracle 関連のファイルを削除します。
7. /etc/init.d ディレクトリの init.cssd ファイルを削除します。
8. /etc/rc5.d ディレクトリの CSS ファイルを削除します。

手順は、次の例のようになります。

```
# /bin/rm -rf /opt/app/*
# /bin/rm -rf /oracle
# /usr/sbin/userdel oracle
# /usr/sbin/groupdel oinstall
# /usr/sbin/groupdel dba

[root@booger SUNWnlsp]# cd /etc
[root@booger etc]# ls -l ora*
-rw-rw-r-- 1 oracle oinstall 55 Apr 13 08:48 oraInst.loc
-rw-rw-r-- 1 oracle root 760 Apr 13 10:43 oratab

oracle:
total 8
-rw-r--r-- 1 oracle oinstall 92 Apr 13 10:43 ocr.loc
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Apr 13 08:53 scls_scr

# /bin/rm -fr ora*

# cd /etc/init.d

# /bin/rm -rf init.cssd
```

```
# cd /etc/rc5.d
[root@booger rc5.d]# ls *css*
K96init.cssd S96init.cssd
# /bin/rm -rf K96init.cssd S96init.cssd
```

実行時の問題

Oracle データベースソフトウェアをプロビジョニングする際の問題は現在、ありません。

第 3 章

Oracle Database プラグインのインストールと構成

この章では、Oracle データベース プラグインのインストールと構成に必要な手順を説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「Oracle Database プラグインの入手」
- 18 ページの「Oracle Database プラグインを N1 Grid SPS に追加」
- 19 ページの「環境に合わせてソリューションをカスタマイズ」

Oracle Database プラグインの入手

Oracle データベース ソリューションは、N1 Grid SPS ソフトウェアへのプラグインとしてパッケージ化されています。プラグインは、Java™ Archive (JAR) ファイルとしてパッケージ化されています。Oracle データベース ソリューション用のプラグイン ファイルは、N1 Grid Service Provisioning System Supplement CD か Sun Download Center から入手できます。

Oracle Database プラグインを N1 Grid SPS に追加

注 - Oracle 9i データベースをサポートする JAR ファイルと 10g データベースをサポートする JAR ファイルは別のものです。ただし、いくつかの共通のコンポーネントが Oracle 10g プラグインに組み込まれています。その結果、Oracle 9i をサポートするには、Oracle 9i プラグインと Oracle 10g プラグインをインストールする必要があります。Oracle 10g をサポートするには、Oracle 10g プラグイン JAR ファイルをインストールするだけで十分です。

特定のプラグインを N1 Grid SPS 製品に認識させるためには、以下の手順でプラグインをインポートする必要があります。Oracle プラグインファイルをインポートする方法については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」の手順を参照してください。

1. メインウィンドウの「Administrative」セクションにある「Plug-ins」をクリックします。
2. 「Plug-ins」ページの「Action」列にある「Import」をクリックします。
3. `com.sun.oracle10g_DB_1.0.jar` ファイルをダウンロードした場所までブラウズします。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。
インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが表示され、プラグインに含まれる一連のオブジェクトが示されます。
5. 「Plug-ins」ページの「Action」列にある「Import」をクリックします。
6. `com.sun.oracle9i_DB_1.0.jar` ファイルをダウンロードした場所までブラウズします。
7. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。
インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが表示され、プラグインに含まれる一連のオブジェクトが示されます。

コマンド行からプラグインアーカイブファイルをインポートすることもできます。次のコマンドを使用します。

```
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.oracle10g_DB_1.0.jar -u username -p password
% cr-cli -cmd plg.p.add -path com.sun.oracle9i_DB_1.0.jar -u username -p password
```

環境に合わせてソリューションをカスタマイズ

リモートエージェントに関する要件

プロビジョニングソフトウェアのリモートエージェント (RA) をインストールする場合は、RA が root として実行されるように設定してください。Oracle のインストールでは通常、ユーザーとして oracle が使用されますが、インストールプロセスで生成されるスクリプトの中には root として実行されるものがあります。

Linux システム用の共有メモリーとセマフォ어의設定

Linux システムでは、次のセマフォ어と共有メモリーの設定が使用されます。

```
kernel.shmmax = 1073741824
kernel.shmall = 536870912
kernel.sem = 250 32000 100 128
net.ipv4.ip_local_port_range = 32768 65000
```

注 - これらの値はインストール時に設定されます。したがって、ユーザーが設定する必要はありません。

kernel.shmmax の実際の値は、ターゲットホストのメモリー量によって異なります。この値は、OraSpt プランによってその実行時に動的に調整されます。

Solaris システム用の共有メモリーとセマフォ어의設定

Solaris システムの場合も、前述の Linux システム用の設定に似たセマフォ어と共有メモリーの設定を行う必要があります。これらの値の設定は、Oracle データベースソフトウェアをインストールする前に行う必要があります。詳細については、Oracle のマニュアルを参照してください。

SPARC で動作する Oracle 9i 用の Solaris パッチ

Solaris SPARC システムで Oracle 9i を実行する場合は、SunSolve web site から 3 つの Solaris パッチをダウンロードし、システムにインストールする必要があります。

- 112785-45
- 112963-17
- 113096-03

注 - パッチリストは、このドキュメントのリリース時点から変更されている可能性があります。Solaris システム上の Oracle に適用される最新パッチについては、Oracle web site と SunSolve を確認してください。

第 4 章

Oracle Database プラグインの使用法

Oracle データベース プラグインは、Oracle 9i および 10g シングルインスタンスデータベースソフトウェアの実行のために特に必要となるコンポーネントと機能を備えています。この章では、次の内容について説明します。

- 21 ページの「Oracle データベースプラグインプロセスの概要」
- 22 ページの「Oracle サポートスクリプト」
- 23 ページの「Oracle シングルインスタンスソフトウェア」
- 29 ページの「データベースの作成と使用」
- 32 ページの「コンポーネント」
- 32 ページの「障害追跡」

Oracle データベースプラグインプロセスの概要

注 - Oracle データベースプラグインのこのリリースは、シングルインスタンス環境の Oracle データベースソフトウェアだけをサポートしています。Oracle RAC (Real Application Clusters) のサポートは含まれていません。

Oracle データベースプラグインを使用するためには、いくつかの手順を行う必要があります。

1. 個別のノードで使用する Oracle データベースソフトウェアを購入します。
2. Oracle システムをインストールするディレクトリ構造を定義します。
3. 必要なパッチを Oracle Web サイトからダウンロードします。

注 - 現在、Linux システム用の Oracle 9i に適用するパッチがあります。さらに、Solaris SPARC システムで Oracle 9i を実行する場合は、19 ページの「SPARC で動作する Oracle 9i 用の Solaris パッチ」で述べた Solaris パッチをインストールしてください。

4. ターゲットの Oracle システムに適用したいディレクトリ構造を定義します。
5. Oracle 9i の場合
 - `syspass` セッション変数が設定されていなければなりません。
 - Oracle 9i ソフトウェアとサポートスクリプトをインストールします。詳細は、23 ページの「Oracle Database 10g 用の Oracle シングルインスタンスソフトウェアをインストールする」を参照してください。
 - Oracle 9i データベースを作成します。詳細は、29 ページの「Oracle 9i データベースを作成する」を参照してください。
6. Oracle 10g の場合
 - Oracle 10g ソフトウェアとサポートスクリプトをインストールします。詳細は、23 ページの「Oracle Database 10g 用の Oracle シングルインスタンスソフトウェアをインストールする」を参照してください。
 - Oracle 10g データベースを作成します。詳細は、30 ページの「Oracle 10g データベースを作成する」を参照してください。

Oracle サポートスクリプト

Oracle サポートスクリプトでは主に、適切な Oracle ユーザーの作成や、共有メモリの定義、セマフォ設定の作成などを行います。これらのスクリプトは OraSpt コンポーネントに含まれています。サポートスクリプトは、シングルインスタンスソフトウェアのインストール時にインストールされます。

Oracle ユーザーおよびグループ

OraSpt コンポーネントは 1 つの OS ユーザーと 2 つの OS グループを作成します。

- ユーザー: `oracle`
- グループ: `oinstall`
- グループ: `dba`

NIS または LDAP にグループがすでに存在する場合は、グループ名に「n1」が付加されます。したがって、グループ `dba` がすでに存在する場合は、ユーザー `n1dba` が作成されます。

Oracle シングルインスタンスソフトウェア

SingleInst コンポーネントは、シングルノード Oracle データベースソフトウェア用のファイルをカプセル化し、配備します。

▼ セッション変数を設定する

Oracle データベースインスタンスをインストールしたり、データベースを作成する前に、セッション変数 `sysPass` を設定する必要があります。この変数は、データベースユーザー `SYS` や `SYSTEM` のデフォルトパスワードとなります。

注 - ここで定義するパスワードは、SQL*Plus の実行に使用するパスワードでもありません。

N1 Grid SPS ブラウザインタフェースからセッション変数を設定する場合は、次のようにします。

- 手順
1. **N1 Grid SPS** ブラウザインタフェースのウィンドウ最上部にある「**Session Variables**」をクリックします。
 2. 「**Session Variable**」フィールドに `syspass` と入力します。
 3. 「**Password**」列のボックスにチェックを入れます。
 4. 「**Value**」フィールドに、データベースユーザー `SYS` と `SYSTEM` に使用するパスワードを入力します。
パスワードは入力と同時に暗号化されます。
 5. 「**Action**」列の「**Create**」をクリックします。
 6. プロンプトが表示されたら適切なパスワードを入力します。

▼ Oracle Database 10g 用の Oracle シングルインスタンスソフトウェアをインストールする

- 手順
1. **N1 Grid SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで **Oracle Database 10g** を選択します。

2. 「Oracle Database 10g Common Tasks」 ページで「Install」をクリックします。
3. 「Plans Details」 ページで「Run」をクリックします。
4. Oracle サポートスクリプト用に使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「Plan Parameters」 テーブルの **OraSpt** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「Plan Parameters」 テーブルの **OraSpt** コンポーネント行にある「Select from List」をクリックします。
 - a. 「Create Set」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. **installPath** 用のフィールドに、サポートスクリプトをインストールする場所を示すフルパスを入力します。
たとえば /var/tmp/Ora_Spt と入力します。
 - d. **installerHome** 用のフィールドに、Oracle ソフトウェアファイルの場所を示すフルパスを入力します。
たとえば /mnt/Ora10gR1 と入力します。
このパスは CD、または適切なファイルが格納されているほかの場所を示すことができます。Oracle 10g の場合、**installerHome** 変数はソフトウェア CD の最上位ディレクトリを示します。このディレクトリは、Disk1 ディレクトリの上に位置する親ディレクトリです。
 - e. シングルインスタンスサポートファイルに対して、**racInstall** フィールドが **FALSE** に設定されているか確認します。
 - f. 変数セットを保存します。
 - g. 「Plan Parameters」 テーブルの **OraSpt** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
5. シングルインスタンスソフトウェア用に使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「Plan Parameters」 テーブルの **SingleInst** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「Plan Parameters」 テーブルの **SingleInst** コンポーネント行にある「Select from List」をクリックします。
 - a. 「Create Set」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. **installPath** 用のフィールドに、Oracle サイレント応答ファイルを格納する場所を示すフルパスを入力します。

たとえば /var/tmp/Oracle10g と入力します。

- d. **ORACLE_HOME_NAME** 用のデフォルト値が使用されるコンポーネントがこのホスト上にすでに存在する場合は、変数 **ORACLE_HOME_NAME** の値を定義します。

注 – 同じ物理ホストにインストールされている2つのコンポーネントが同じ **ORACLE_HOME_NAME** をもつことはできません。

- e. **installerHome** 用のフィールドに、**Oracle** ソフトウェアファイルの場所を示すフルパスを入力します。

たとえば /mnt/Ora10gR1 と入力します。

このパスは CD、または適切なファイルが格納されているほかの場所を示すことができます。**installerHome** 変数はソフトウェアの最上位ディレクトリを示します。このディレクトリは、Disk1 ディレクトリの上に位置する親ディレクトリです。

- f. **ORACLE_BASE** 用のフィールドに、**Oracle** ソフトウェアをインストールするルートディレクトリへのパスを入力します。

たとえば /opt/app/oracle と入力します。

- g. このホストで **Oracle** リスナーを実行する場合は、**crListener** の値を **TRUE** に設定します。

注 – 1つの物理ホストでは1つの **Oracle** リスナーだけを実行することをお勧めします。

- h. **softGroup** 変数と **dbaGroup** 変数が正しいか確認します。

- i. ターゲットホストで次のコマンドを入力します。 **id -a oracle .**

- ii. **oracle** ユーザー用に作成したグループ名をメモします。

- iii. これらのグループ名が **softGroup** または **dbaGroup** フィールドのデフォルト名と異なる場合は、これらの値を必要に応じて変更します。

- i. **TOPLEVEL_COMPONENT** 変数が、インストールする **Oracle** のバージョンと完全に一致しているか確認します。

たとえば、10.1.0.3.0 をインストールする場合には、**TOPLEVEL_COMPONENT** 変数の値をデフォルトの 10.1.0.2.0 から 10.1.0.3.0 に変更する必要があります。

- j. 必要に応じてほかの変数を変更します。

注 – oraPrflFile 変数の場合、環境ファイルは Bourne シェル、Korn シェル、またはバッシュのプロファイルでなければなりません。C シェルはサポートされていません。

k. 変数セットを保存します。

l. 「**Plan Parameters**」テーブルの **SingleInst** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。

6. ターゲットホストを選択するには、「**Plans Details Run**」ページの「**Target Host**」フィールドの次にある「**Select from List**」をクリックします。

注 – このプラグインではこのコンポーネントをホストセットにインストールできますが、ホストセットは、シングルインスタンスインストールよりも RAC インストールの場合の方が意味があるといえます。

7. ソフトウェアをインストールするには、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Oracle Database 9i 用の Oracle シングルインスタンスソフトウェアをインストールする

- 手順
1. **N1 Grid SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで **Oracle Database 9i** を選択します。
 2. 「**Oracle Database 9i Common Tasks**」ページで「**Install**」をクリックします。
 3. 「**Plans Details**」ページで「**Run**」をクリックします。
 4. **Oracle** サポートスクリプト用に使用する変数を選択します。
 - 既存の変数セットを使用する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **OraSpt** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **OraSpt** コンポーネント行にある「**Select from List**」をクリックします。
 - a. 「**Create Set**」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. **installPath** 用のフィールドに、サポートスクリプトをインストールする場所を示すフルパスを入力します。

たとえば /var/tmp/Ora_Spt と入力します。

- d. **installerHome** 用のフィールドに、**Oracle** ソフトウェアファイルの場所を示すフルパスを入力します。

たとえば /mnt/Ora9iR2 と入力します。

installerHome 変数はソフトウェアの最上位ディレクトリを示します。このディレクトリは、**Disk1** ディレクトリの上に位置する親ディレクトリです。Linux 用 Oracle 9i の場合、**installerHome** 変数は、Oracle Patch No. 3006854 を含むディレクトリを示します。

注 – Oracle データベースプラグインは、インストール処理時の CD の入れ替えをサポートしていません。Oracle 9i は 3 つの物理 CD から構成されているため、これらの CD を 1 つの場所にコピーして、そこからすべての情報を入手できるようにする必要があります。

- e. Linux 用 Oracle 9i を実行する場合は、**oracleRel** 変数に **9iR2** を設定します。
- f. シングルインスタンスサポートファイルに対して、**racInstall** ファイルが **FALSE** に設定されているか確認します。

注 – Oracle データベースプラグインのこのリリースは、シングルインスタンス環境の Oracle データベースソフトウェアだけをサポートしています。Oracle RAC (Real Application Clusters) のサポートは含まれていません。したがって、**racInstall** 変数の値は **FALSE** のままでなければなりません。

- g. 変数セットを保存します。
- h. 「**Plan Parameters**」テーブルの **OraSpt** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
5. シングルインスタンスソフトウェア用に使用する変数を選択します。
- 既存の変数セットを使用する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **SingleInst** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから名前を選択します。
 - 新しい変数セットを作成する場合は、「**Plan Parameters**」テーブルの **SingleInst** コンポーネント行にある「**Select from List**」をクリックします。
 - a. 「**Create Set**」をクリックします。
 - b. 変数セットの名前を入力します。
 - c. **installPath** 用のフィールドに、**Oracle** サイレント応答ファイルを格納する場所を示すフルパスを入力します。

たとえば /var/tmp/Oracle9iR2 と入力します。

- d. **ORACLE_HOME_NAME** 用のデフォルト値が使用されるコンポーネントがこのホスト上にすでに存在する場合は、変数 **ORACLE_HOME_NAME** の値を定義します。

注 - 同じ物理ホストにインストールされている 2 つのコンポーネントが同じ **ORACLE_HOME_NAME** をもつことはできません。

- e. **installerHome** 用のフィールドに、**Oracle** ソフトウェアファイルの場所を示すフルパスを入力します。

たとえば /mnt/Ora9iR2 と入力します。

installerHome 変数はソフトウェアの最上位ディレクトリを示します。このディレクトリは、Disk1 ディレクトリの上に位置する親ディレクトリです。Linux 用 Oracle 9i の場合、**installerHome** 変数は、Oracle Patch No. 3006854 を含むディレクトリを示します。

注 - Oracle データベースプラグインは、インストール処理時の CD の入れ替えをサポートしていません。Oracle 9i は 3 つの物理 CD から構成されているため、これらの CD を 1 つの場所にコピーして、そこからすべての情報を入手できるようにする必要があります。

- f. **ORACLE_BASE** のフィールドでは、**Oracle** ソフトウェアをインストールするルートディレクトリへのパスを指定します。

次に例を示します。 /opt/app/oracle9

- g. このホストで **Oracle** リスナーを実行する場合は、**crListener** の値を **TRUE** に設定します。

注 - 1 つの物理ホストでは 1 つの **Oracle** リスナーだけを実行することをお勧めします。

- h. **softGroup** 変数と **dbaGroup** 変数が正しいか確認します。

- i. ターゲットホストで次のコマンドを入力します。 **id -a oracle .**

- ii. **oracle** ユーザー用に作成したグループ名をメモします。

- iii. これらのグループ名が **softGroup** または **dbaGroup** フィールドのデフォルト名と異なる場合は、これらの値を必要に応じて変更します。

- i. **TOPLEVEL_COMPONENT** 変数が、インストールする **Oracle** のバージョンと完全に一致しているか確認します。

- j. 必要に応じてほかの変数を変更します。

注 – oraPrflFile 変数の場合、環境ファイルは Bourne シェル、Korn シェル、またはバッシュのプロファイルでなければなりません。C シェルはサポートされていません。

- k. 変数セットを保存します。

- l. 「**Plan Parameters**」テーブルの **SingleInst** コンポーネント行にあるドロップダウンメニューから、上で保存した変数セットを選択します。
6. ターゲットホストを選択するには、「**Plans Details Run**」ページの「**Target Host**」フィールドの次にある「**Select from List**」をクリックします。

注 – このプラグインではこのコンポーネントをホストセットにインストールできませんが、ホストセットは、シングルインスタンスインストールよりも RAC インストールの方が意味があるといえます。

7. ソフトウェアをインストールするには、「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

データベースの作成と使用

データベースについて

Oracle データベースには 3 つの種類があります。

- 汎用目的 – 多様なトランザクションが混在した汎用的なデータベース
- データウェアハウス – 長時間を要する非定型的な照会に最適なデータベース
- トランザクション処理 – 多数の短いトランザクションや定型的な照会に使用するトランザクション指向のデータベース

▼ Oracle 9i データベースを作成する

- 手順 1. **N1 Grid SPS** ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで **Oracle Database 9i** を選択します。

2. 「Oracle Database 9i Common Tasks」 ページで「Create」をクリックします。
3. 「Plans Details」 ページで「Run」をクリックします。
4. 「Plan Details Run」 ページで、データベースを作成するターゲットホストを選択します。
5. 「Plan Details Run」 ページでプランの変数情報を入力します。
 - a. 必要な場合は **Oracle Service** の名前を変更します。
Oracle 9i の場合は、サービス名を or9i とするとよいでしょう。
 - b. このサービスをデフォルトサービスにする場合は、チェックボックスをクリックします。
 - c. このデータベースに適用するデータベーステンプレートの名前を入力します。
デフォルトのデータベーステンプレートは General_Purpose です。このテンプレートは、データベースが、複数のトランザクションタイプに対して使用されることを意味します。そのほかのテンプレートとしては次のものがあります。
 - Data_Warehouse – 長時間を要する非定型的な照会に最適なデータベース
 - Transaction_Processing – 多数の短いトランザクションや定型的な照会に使用するトランザクション指向のデータベース
 - d. 必要な場合は、データベースに使用する文字セットを変更します。
デフォルトの文字セットは Western European (ISO 8859) です。Oracle での文字セットについては、Oracle のマニュアルを参照してください。
6. 「Run Plan (includes preflight)」 をクリックします。

▼ Oracle 10g データベースを作成する

- 手順
1. **N1 Grid SPS** ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで **Oracle Database 10g** を選択します。
 2. 「Oracle Database 10g Common Tasks」 ページで「Create」をクリックします。
 3. 「Plans Details」 ページで「Run」をクリックします。
 4. 「Plan Details Run」 ページで、データベースを作成するターゲットホストを選択します。
 5. 「Plan Details Run」 ページでプランの変数情報を入力します。
 - a. 必要な場合は **Oracle Service** の名前を変更します。
Oracle 10g の場合は、サービス名を or10g とするとよいでしょう。

- b. このサービスをデフォルトサービスにする場合は、チェックボックスをクリックします。
- c. このデータベースに適用するデータベーステンプレートの名前を入力します。デフォルトのデータベーステンプレートは `General_Purpose` です。このテンプレートは、データベースが、複数のトランザクションタイプに対して使用されることを意味します。そのほかのテンプレートとしては次のものがあります。
- `Data_Warehouse` – 長時間を要する非定型的な照会に最適なデータベース
 - `Transaction_Processing` – 多数の短いトランザクションや定型的な照会に使用するトランザクション指向のデータベース
- d. このデータベースに対して使用するストレージタイプを選択します。
- デフォルトでは、ストレージタイプは **FS** (ファイルシステム) です。
 - **ASM (Automatic Storage Management)** では、高可用性 (**RAID**) ソリューションがサポートされます。
そのほかの情報や、そのほかのユーザー設定を実行する必要がある場合は、Oracle のマニュアルを参照してください。
ASM ストレージタイプを使用する場合は、4 つのフィールドに追加情報を指定する必要があります。
 - i. **ASM** 用に使用する一連の **raw** ディスクを入力します。
 - ii. 採用する **ASM** 冗長性タイプを選択します。
 - iii. **ASM** 用に使用するディスクグループの名前を入力します。
 - iv. **ASM** 管理用に使用するパスワードを入力します。
 - **RAW** では、どのファイルシステムユーティリティもサポートされません。
- e. 会社全体をローカル **Web** サイトから管理するか、中央の **Web** サイトから管理するかを選択します。
中央の **Web** サイトから一元的に管理する場合は、URL を指定します。

注 – 一元的な管理を行う場合は、データベースを作成する前に、管理エージェントをターゲットにインストールする必要があります。ここでローカル管理を選択しても、後で一元的な管理に変更することができます。

- f. 必要な場合は、データベースに使用する文字セットを変更します。
デフォルトの文字セットは `Western European (ISO 8859)` です。Oracle での文字セットについては、Oracle のマニュアルを参照してください。

- g. (省略可能) **Flash** バックアップを有効にする場合は、バックアップディレクトリへのパスを入力します。

6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

同じホストで Oracle 9i と 10g を使用する方法

ソフトウェアのインストールとデータベースの作成が終わったら、ソフトウェアの両バージョンを同じホストで実行するために、Oracle ネットサービス構成を結合する必要があります。基本的には、ネットサービス名とリスナー情報をホスト上の1つのリスナーとして結合する必要があります。詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。

コンポーネント

Oracle Database プラグインには2つのコンポーネントが含まれています。

- OraSpt
- SingleInst

OraSpt コンポーネント

OraSpt コンポーネントには、Oracle データベース用のサポートファイルがありません。

SingleInst コンポーネント

SingleInst コンポーネントは、シングルノード Oracle データベースソフトウェア用のファイルをカプセル化し、配備します。

障害追跡

問題: データベースソフトウェアのインストール時にエラーが起こった。

対処方法: `installerHome` 変数の値をチェックしてください。この変数は、`installerHome` の値にある種の情報自動的に付加します。たとえば、Oracle ソフトウェアがディレクトリ `/appsrc/Disk1/runInstaller` にある場合は、`installerHome` 変数に `/appsrc` だけを設定します。必要に応じてプラグインは、`installerHome` 変数に定義されているパスに `Disk1/...` を付加します。

問題: コンポーネントの配備時にエラーが起こった。

対処方法: 次の手順を実行します。

1. `installPath` か `ORACLE_BASE` 変数で指定したパスに配備されているファイルを削除します。
2. Linux システムの場合は `/etc` ディレクトリにあるファイル `oraInst.loc` を、Solaris システムの場合は `/var/opt/oracle` ディレクトリにあるファイル `oraInst.loc` をそれぞれ削除します。
3. `oracle` ユーザーが所有するプロセスを終了させます。
4. 配備を再度行います。

索引

数字・記号

- 10g ソフトウェアのインストール, 23-26
- 10g データベースの作成, 30-32
- 9i ソフトウェアのインストール, 26-29
- 9i データベースの作成, 29-30

A

- ASM ストレージ, 31

D

- dba グループ, 22

J

- JAR ファイル, 17
- Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

L

- Linux
 - 共有メモリーの要件, 19
 - セマフォの要件, 19

O

- oinstall グループ, 22

Oracle

- サポートされるオペレーティングシステム, 10
 - ドキュメント, 10-11
 - バージョン間の依存関係, 13
- Oracle ユーザー, 22
- OraSpt コンポーネント, 22

R

- RAC は非サポート, 21
- RA に関する要件, 19

S

- Solaris
 - 共有メモリーの要件, 19
 - セマフォの要件, 19
 - パッチ, 19-20
- SQL*plus, 23

い

- 依存関係, 13

え

- エラーメッセージ 60410, 13

き

- 共有メモリの要件
 - Linux の, 19
 - Solaris の, 19

く

- グループ
 - dba, 22
 - oinstall, 22

さ

- サポートされる Oracle のバージョン, 10
- サポートされるソフトウェア構成, 10

し

- シングルインスタンスソフトウェア
 - 10g 用のインストール, 23-26
 - 9i 用のインストール, 26-29

せ

- セッション変数, 23
- セマフォの要件
 - Linux の, 19
 - Solaris の, 19

て

- データベース
 - 10g 用の作成, 30-32
 - 9i 用の作成, 29-30
 - トランザクショングループ, 29

は

- 配備サーバーの要件, 10
- パスワード, 23

ふ

- プラグイン
 - インポート, 18
 - 構成, 19-20
 - 内容, 10
 - 配備サーバーの要件, 10
 - 目的, 9
- プラグインのインポート, 18
- プラグインの構成, 19-20
- プラグインファイル
 - インポート, 18
 - 場所, 17
- プロセス, 21-22

へ

- 変数
 - syspass, 23
 - セッション, 23

ゆ

- ユーザー
 - Oracle, 22
 - sys, 23
 - システム, 23

よ

- 要件
 - 共有メモリの, 19
 - セマフォの, 19
 - リモートエージェントに関する, 19